計算社会科学研究センター
2023 年度活動報告書

（2023 年 4 月～2024 年 3 月）

CCSS
Center for Computational Social Science

目　　次

I.　計算社会科学研究センターの概要 ……
II.　組織の編成……
　　1.　構成と人員
　　2.　研究部門と支援部門
III. 最近における特記事項……
　　1.　Journal of Computational Social Science について……
　　　1.1　ジャーナル刊行
　　　1.2　Journal Citation Reports 2023 年版　JCSS の評価
　　2.　計算社会科学の人材育成 ……
　　　2.1　CCSS Workshop on Computational Social Science 開催
　　　2.2　Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024 開催
　　　2.3　YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』
　　3.　大型科研費・外部資金獲得実績
　　4.　データベースの構築と公開
IV. リサーチフェロー……
V.　研究実績と活動状況……
　　1.　シミュレーション部門
　　上東　貴志（部門長） ……
　　北野　重人 ……
　　飯塚　敦 ……
　　大石　哲 ……
　　貝原　俊也 ……
　　横川　三津夫 ……
　　佐野　英樹 ……

　　2.　データ分析部門
　　西谷　公孝（部門長） ……
　　中川　丈久 ……
　　栗木　契 ……
　　小林　照義 ……
　　柴本　昌彦 ……
　　西村　和雄 ……
　　加藤　諒 ……
　　Ivan ROMIC ……
　　陳　訓泉 ……
　　Shady SALAMA ……

3. データベース部門
高槻　泰郎（部門長）……
島村　靖治……
小代　薫……
田中　克幸……
正田 ヴェラ パオラ レイエス……

VI. 今後の展望と方針……

Ⅰ. 計算社会科学研究センターの概要

計算社会科学研究センター（CCSS：Center for Computational Social Science）は、社会科学、計算科学、データサイエンスの融合領域である計算社会科学における共同研究を推進し、計算科学とデータサイエンスに基づいた新しい社会科学としての計算社会科学の確立と体系化を目指し、世界的に同領域を牽引する国際研究拠点を形成することである。

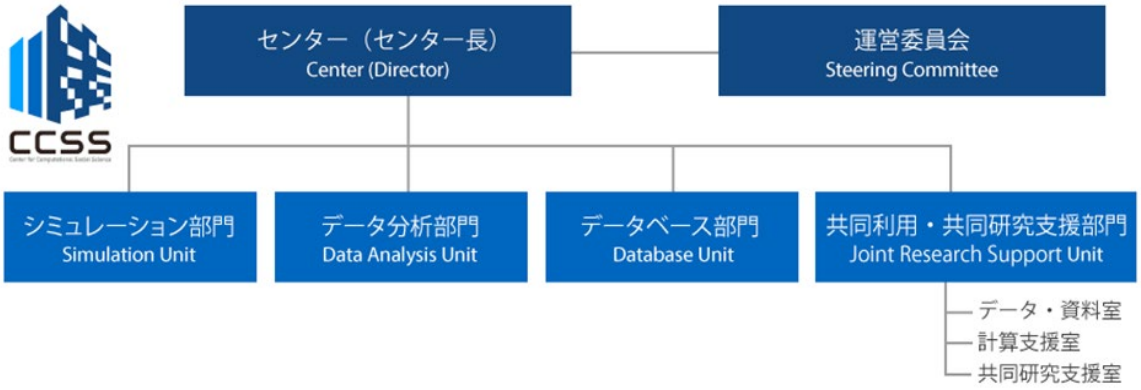
本センターは、2017 年 3 月 15 日に経済経営研究所の部局内組織として創設され、2018 年 4 月 1 日に全学基幹研究推進組織となる。

計算社会科学研究センターは、前述の目的を達成するために、シミュレーション部門、データ分析部門、データベース部門、共同利用・共同研究支援部門（2021 年 4 月設置）で構成され、計算社会科学における先端研究、研究を促進するための技術開発、研究を促進するためのデータベース作成、その他学術研究の推進と普及のために必要な研究等に取り組んでいる。

計算社会科学は、近年急速に発展しているビッグデータや計算技術に基づく「新しい社会科学」である。オンライン上で取得可能なビッグデータ、コンピュータ・シミュレーション、ネットワーク分析を中心とした高度な計算技術を用いた社会現象の定量的分析であり、近年急速に発展している。本センターは、計算社会科学に特化した唯一の研究センターであり、他大学にない独自性の高いものである。

Ⅱ. 組織の編成

1. 構成と人員



運営委員（2023 年 4 月 1 日現在）

氏名	職位	部門	所属
上東　貴志	センター長　　教授	シミュレーション部門	計算社会科学研究センター
西谷　公孝	副センター長　教授	データ分析部門	経済経営研究所
高槻　泰郎	副センター長　准教授	データベース部門	経済経営研究所
柴本　昌彦	教授	データ分析部門	計算社会科学研究センター
中川　丈久	教授	データ分析部門	法学研究科
小林　照義	教授	データ分析部門	経済学研究科
栗木　契	教授	データ分析部門	経営学研究科
島村　靖治	教授	データベース部門	国際協力研究科
田中　成典	教授	運営委員	システム情報学研究科
大石　哲	教授	シミュレーション部門	都市安全研究センター

2. 研究部門と支援部門（2023 年 4 月 1 日現在）

シミュレーション部門

社会経済モデルのシミュレーションに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職　位	氏　名		学　域
教授	上東　貴志	Takashi KAMIHIGASHI	先端経済経営研究学域
教授	北野　重人	Shigeto KITANO	先端経済経営研究学域
教授	飯塚　敦	Atsushi IIZUKA	工学域
教授	大石　哲	Satoru OISHI	工学域
教授	貝原　俊也	Toshiya KAIHARA	システム情報学域
教授	横川　三津夫	Mitsuo YOKOKAWA	システム情報学域
教授	佐野　英樹	Hideki SANO	システム情報学域

データ分析部門

大規模データに基づく計算社会科学領域の研究を行う。

職　位	氏　名		学　域
教授	西谷　公孝	Kimitaka NISHITANI	先端経済経営研究学域
教授	中川　丈久	Takehisa NAKAGAWA	法学域
教授	栗木　契	Kei KURUKI	経営学域
教授	柴本　昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	先端経済経営研究学域
教授	小林　照義	Teruyoshi KOBATASHI	経済学域
特命教授	西村　和雄	Kazuo NISHIMURA	先端経済経営研究学域
准教授	加藤　諒	Ryo KATO	先端経済経営研究学域
特命助教	ロミチ, イヴァン	Ivan ROMIC	先端経済経営研究学域
特命助教	陳　訓泉	Xunquan CHEN	先端経済経営研究学域
助手	サラマ, シャディ	Shady SALAMA	先端経済経営研究学域
学術研究員	佐々木　洋介	Yosuke SASAKI	先端経済経営研究学域

データベース部門

計算社会科学に関わるデータベースの構築を行う。

職　位	氏　名		学　域
教授	島村　靖治	Yasuharu SHIMAMURA	国際協力学域
准教授	髙槻　泰郎	Yasuo TAKATSUKI	先端経済経営研究学域
特命講師	小代　薫	Kaoru KOSHIRO	先端経済経営研究学域
特命講師	田中　克幸	Katsuyuki TANAKA	先端経済経営研究学域
助教	正田 ヴェラ パオラ レイエス	Vera Paola Reyes SHODA	先端経済経営研究学域

共同利用・共同研究支援部門

職　位	氏　名		学　域
教授	榎本　正博	Masahiro ENOMOTO	データ資料室
講師	國本　光正	Terumasa KUNIMOTO	データ資料室
教授	濱　俊毅	Nobuaki HAMAGUCHI	計算支援室
助教	内田　並子	Namiko UCHIDA	計算支援室
助手	衛藤　あい	Ai ETO	計算支援室
教授	岩佐　和道	Kazumichi IWASA	共同研究支援室
教授	柴本　昌彦	Masahiko SHIBAMOTO	共同研究支援室
助教	中田　未央	Mio NAKATA	共同研究支援室
助手	下大薗　充重	Michie SHITAOZONO	共同研究支援室

Ⅲ. 最近における特記事項

1. Journal of Computational Social Science について

1.1. ジャーナル刊行

平成 30（2018）年　計算社会科学の国際的専門学術誌 『Journal of Computational Social Science』を創刊した。

神戸大学計算社会科学研究センター（CCSS: Center for Computational Social Science。以下「CCSS」という。）と経済経営研究所の協力の下で、平成 30（2018）年 1 月にこの領域において世界初となる専門学術誌『Journal of Computational Social Science』（Springer 社　以下「JCSS」という。）が創刊され、上東貴志計算社会科学研究センター長が初代編集委員長に就任した。

計算社会科学に特化した世界初の査読付学術雑誌として、世界中から多数の論文が投稿されており、創刊した 2018 年から 2023 年までの 6 年間で 220 本の論文を掲載している。計算社会科学研究の発表の場として既に国際的に広く認識されており、優れた研究成果を世界へ発信する場となっている。JCSS の編集委員は、世界的に活躍する 28 名の研究者からなり、その所属機関の位置する国は世界 13 か国に及ぶ。また過去 3 年間の掲載論文著者の所属機関国は 37 か国となり JCSS が世界的に広く開かれた国際学術雑誌であるだけでなく、国際的需要が極めて高いことも表している。

2020 年 JCSS は、Clarivate Analytics 社（以下「CA 社」という）が 2015 年から新たなデータベースとして導入した Emerging Sources Citation Index(ESCI)に収録された。ESCI は、ジャーナルとして国際的な基準に達しており、かつ今後、質の向上が見込まれる学際的なジャーナルを集めたデータベースであり、2018 年 1 月の創刊間もない JCSS が収載されたことは意義深い。

またクラリベイト社が発表した Journal Citation Reports 2023 年版で、Journal Impact Factor3.2 を獲得している。引き続き、JCSS の Social Science Citation Index (SSCI) への収載を目指している。

1.2. Journal Citation Reports 2023 年版　JCSS の評価

クラリベイト社の Journal Citation Reports 2023 年版（以下、JCR2023）が 2023 年 6 月に公開されたところによると、JCSS は 254 ある研究カテゴリで、「SOCIAL SCIENCES, MATHEMATICAL METHODS」に分類されている。同カテゴリ内には、JCSS を含め合計 67 誌のジャーナルが収録されている。

Journal Citation Reports 2024 年版のジャーナル指標として、Journal Citation Indicator (JCI) があり、JCI は過去 3 年間（2021 年，2022 年，2023 年）の引用の平均インパクト (Category Normalized Citation Impact (CNCI)) を表している。JCSS は、この JCI の指標で「1.14」という数値を獲得し、67 誌中、11 位にランク付けされ、上位 25%ジャーナル (Q1)として評価されている。

Rank by Journal Citation Indicator (JCI)

Journal Citation Relationships (JCR 2024 より)

CATEGORY

SOCIAL SCIENCES, MATHEMATICAL METHODS

11/67

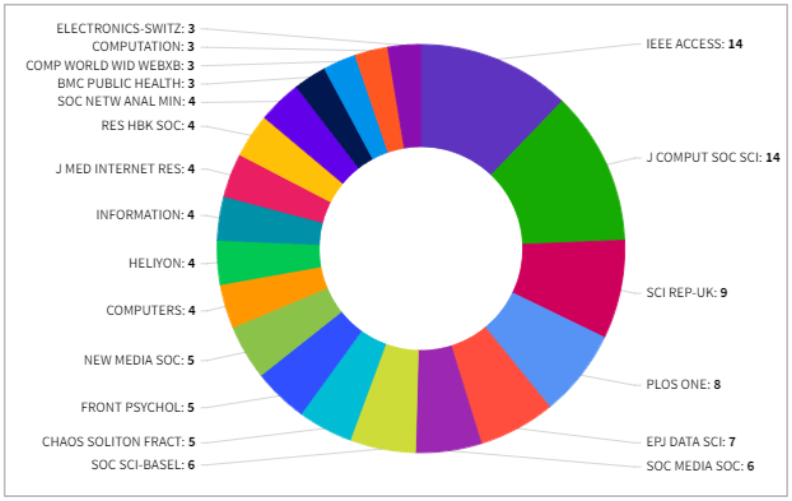
JCR YEAR	JCI RANK	JCI QUARTILE	JCI PERCENTILE
2023	11/67	Q1	84.33
2022	14/65	Q1	79.23
2021	14/65	Q1	79.23

また、同 JCR2024 では、Journal Impact Factor (JIF)　が付与された。JIF は、クラリベイト社 Web of Science Core Collection に索引付けされたデータから算出されるジャーナルレベルの指標であり、JCSS は 2023 Journal Impact Factor として、「2.0」を獲得した。

右記のグラフは、過去 3 年間で JCSS が引用されたジャーナルとその引用数を表したものである。

Journal Citation Relationships

Journal Citation Relationships (JCR 2024 より)



2. 計算社会科学の人材育成

計算社会科学研究センターでは、今後の計算社会科学を牽引する人材を養成するため、また、世界的に活躍する計算社会科学の研究者と若手研究者との交流や議論を交わす場を設けることを目的とし、国際カンファレンスの開催やカンファレンスの内容を動画で作成・公開している。

2.1. CCSS Workshop on Computational Social Science を開催

令和 5（2023）年 12 月 27 日（水）に、"CCSS Workshop on Computational Social Science"を開催しました。同ワークショップでは計算社会科学の分野で世界的に有名な、米・南カリフォルニア大学教授で、当センターリサーチフェローでもある Emilio Ferrara 氏、フィンランド・アールト大学教授で、当センターリサーチフェローの Petter Holme 氏の両氏と、他 3 名の報告者が、生成 AI や今後の社会及び社会科学などについて発表した。若手研究者や大学院生など教育関係者が多数出席し、それぞれの報告で、多くの質問・ディスカッションが繰り広げられ、予定の時間を大幅にオーバーする活発なワークショップとなった。

2. 2. Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024

令和 6（2024）年 3 月 6 日（水）から 3 月 7 日（木）にかけて、オランダ・アムステル大学で、"Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024"を開催した。ワークショップでは，当センターとアムステルダム大学の研究者（特に若手研究者や博士課程院生）が一堂に集まり，お互いの研究成果や計算社会科学という新しい研究分野の経験を共有し、意見交換を行った。また長期的な国際共同研究と今後の両大学間の交流協定の可能性についても話し合うことができた。ワークショップの主なテーマとして「研究と教育」について、11 議題、13 人の研究者・大学院生が研究報告を行ったが、議論は「研究と教育」にとどまらず、水とエネルギー供給の結合された人間-自然システムのダイナミクスや，ソーシャルメディアの影響の中での金融システムの探求にまで広がり，さまざまな分野の計算社会科学の手法に基づいた研究について報告・議論がなされた。

2. 3. YouTube チャンネル『CCSS School on Computational Social Science』
主に大学院生や研究者を対象に、2022 年に『計算社会科学入門』（丸善出版、2021 年 1 月発行）12 章のうち 9 章の紹介動画とともに開設した。その後も動画を追加している。

CCSS School on Computational Social Science - YouTube
https://www.youtube.com/@ccssschooloncomputationals1386/featured

3. 大型科研費・外部資金獲得実績

●上東貴志（教授・シミュレーション部門）：

① 国立研究開発法人科学技術振興機構　未来社会創造事業 探索加速型「超スマート社会の実現」領域　「社会リスク可視化システム、及び社会リスクに適切に対応する意思決定システムの開発」（研究代表者）2020～2023 年度

② 文部科学省　科学研究費補助金：基盤研究 (S)「包括的な金融・財政政策のリスクマネジメント：金融危機から国際関係・災害リスクまで」（研究代表者）2020～2024 年度

●貝原俊也（教授・シミュレーション部門）

① 国立研究開発法人科学技術振興機構　未来社会創造事業 「超スマート社会の実現」領域　本格研究「人間中心の社会共創デザインを可能とするデジタル社会実験基盤技術の開発」（研究代表者）2023 年度～

●大石哲　（教授・シミュレーション部門）

① 戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）
課題「スマート防災ネットワークの構築」
サブ課題 E 防災デジタルツインの構築（研究代表者）2023 年度～2028 年度

4. データベースの構築と公開

計算社会科学は良質のデータを得て、その力を発揮する。

当センターでは、重要なデータを独占することなく、広く共有することで、計算社会科学研究の裾野を広げることを使命としている。その象徴とも言える試みが、研究データベースの公開であり、Historical Database と Market Database という 2 本の柱からなる。

前者では、令和 3（2021）年度から 18 世紀から 20 世紀（第二次大戦前）にかけての歴史的数量データを公開している。具体的には、①江戸時代中期以降における米価、金銀比価（金貨と銀貨の交換レート）、天候、経済的イベント、自然災害などを日次ベースで整理した近世経済データベース（Early Modern Historical Database）と、②近代日本に関するマクロ経済指標（月次）、国債利回り（月次）、財政・政府債務（年次）のデータである。

そして令和 5（2023）年度には、Historical Database の目玉として、江戸時代の大坂の豪商「加島屋（広岡）久右衛門家」、「加島屋（広岡）五兵衛家」に伝来した歴史的資料群のリストおよびデジタルデータを、「加島屋廣岡家アーカイブ」と題して、CCSS データベースのページで試験的に公開した（拡充に向けて一時閉鎖中、2024 年度中に再開予定）。

江戸時代創業の金融商であり、加島銀行、大同生命保険の創業一族である廣岡久右衛門家（本家）、廣岡五兵衛家（分家）の方より、両家に伝来の古文書・古写真、約 2 万点を、神戸大学経済

経営研究所（以下、研究所）に寄託・寄贈したい旨の申し出があり、2022 年 12 月、両家ご子孫と経済経営研究所との間で受け入れ契約を正式に交わすこととなった。

また、大同生命保険株式会社に伝来した同家の経営史料については、大阪大学経済史・経営史資料室に保管されているが、この一部も含める形で、以下の 3 つの史料群についてデジタルデータの公開を当センターは実現した。

加島屋久右衛門玉水町本宅
（廣岡久右衛門家文書より）

① 大同生命文書（大阪大学経済史・経営史資料室寄託）
② 廣岡久右衛門家文書（神戸大学経済経営研究所寄託）
③ 廣岡五兵衛家文書（大阪大学経済史・経営史資料室寄贈）

1625 年に大坂で創業したと伝わる加島屋久右衛門（廣岡家）は、米取引で財を成し、大名との関係性を切り結んで、その資金繰りを助ける中で豪商へと成長し、世界初の先物取引として名高い大坂の堂島米市場が、1730 年に江戸幕府によって認可された際には初代の頭取役に任命されている。18 世紀の半ばには、江戸幕府から大坂商家の筆頭に数えられるまでになった（高槻泰郎（2012）『近世米市場の形成と展開』名古屋大学出版会）。

これらの資料を用いた研究として、当センターの副センター長・高槻泰郎を研究代表者とする科研プロジェクト（基盤 B、16H03645）があり、その成果は書籍として刊行され（高槻泰郎編著『豪商の金融史―廣岡家文書から解き明かす金融イノベーション―』慶應義塾大学出版会、2022 年）、主要新聞各紙、週刊東洋経済、週刊エコノミストなどに書評が掲載され、いずれも高い評価を得ている。

世界初の先物市場、商人と大名のリレーションシップバンキング、近代的銀行業、保険業、これら全てに廣岡家は関与していたため、その経営を分析することは、日本の金融市場がどのような自生的発展を遂げ、グローバル市場との接触を経て、どのように変化したのか、という極めて大きなテーマを分析することを可能とし、経済史・経営史のみならず、日本史・金融ファイナンス論など、多くの研究分野に対して良質な研究素材を提供することになる。

また、同家は NHK 朝の連続テレビ小説「あさが来た」（2015 年度下期）のモデルとなった家であることから一般的な知名度も高く、学術研究の分野以外への波及効果も期待できる。

現在は、より見やすく、またより使いやすいデータベースとするべく、大同生命保険株式会社と連携してウェブサイトの拡充を進めており、2024 年度中の本格公開を目指している。

Market Database は、『地域別の市場データと消費者プロファイルの日次ベースで傾向整理したデータベース。ソーシャルメディア「SNS」（ツイッターや Google レビュー）の話題と感情のデータ』 である。

Ⅳ. リサーチフェロー

2023 年 4 月 1 日現在、17 名のリサーチフェローが所属している。

	研究者氏名	所属	職名	任命期間
1	Alain Barrat	CNRS, Centre de Physique Théorique 東京工業大学	Deputy Director 特任教授	2018.12.1～2024.11.30
2	Ciro Cattuto	ISI Foundation	Scientific Director	2018.12.1～2024.11.30
3	Emilio Ferrara	University of Southern California	Professor	2018.12.1～2024.11.30
4	Petter Holme	Aalto University	Profesor	2018.12.1～2024.11.30
5	Kimmo Kaski	Aalto University	Senior Advisor	2018.12.1～2024.11.30
6	増田　直紀	State University of New York at Buffalo	Professor	2019.8.1～2025.7.31
7	Jesús Gómez Gardeñes	University of Zaragoza	Associate Professor	2019.8.1～2025.7.31
8	Corrado Di Guilmi	University of Technology Sydney	Senior Lecturer	2020.2.1～2026.1.31
9	鳥海　不二夫	東京大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
10	笹原　和俊	東京工業大学	准教授	2020.2.1～2026.1.31
11	瀧川　裕貴	東京大学	准教授	2020.2.1～2026.1.31
12	遠藤　薫	学習院大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
13	藤原　義久	兵庫県立大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
14	和泉　潔	東京大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
15	野田　五十樹	北海道大学	教授	2020.2.1～2026.1.31
16	伊藤　伸泰	理化学研究所	チームリーダー	2020.2.1～2024.1.31
17	榊　剛史	株式会社ホットリンク 東京大学未来ビジョン研究センター	開発本部 R&D部長 客員研究員	2020.3.1～2026.2.28

Ⅴ. 研究業績と活動状況

教授　　上東　貴志（Takashi KAMIHIGASHI）
・計算社会科学研究センター／シミュレーション部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

1. “Positive Fuel Price Elasticities of Expressway Traffic Flows: Insights for Policymakers and Management Strategists,” (with Kashif Ahmed and Miwa Matsuo), Transport Policy, Vol. 142, pages 99-114, doi.org/10.1016/j.tranpol.2023.08.012, October 2023

2. “Japan’s Monetary Policy: A Literature Review and Empirical Assessment,” (with Masahiko Shibamoto and Wataru Takahashi), Journal of Computational Social Science, Vol. 6, Issue 2, Pages 1215-1254, doi.org/10.1007/s42001-021-00113-z, October 2023

＜学会報告等研究活動＞

■（招待講演）“Introduction of the Journal of Computational Social Science,” Workshop of “Computational Society: examine the present and plan for the future”, Institute of Sociology, Academia Sinica 2024 年 3 月 24 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 計算社会科学会
3. IEFS Japan
4. 数理経済学会

■学会役員

1. 計算社会科学会・副会長（2022 年 1 月～）
2. International Economic Association（国際経済学連合）理事（2021 年 7 月～）
3. 計算社会科学会・理事（2021 年 3 月～）
4. 日本学術会議会員（2020 年 10 月～）
5. IEFS Japan　会長（2019 年 1 月～）
6. 日本経済学会・代議員（2018 年 6 月～2022 年 5 月）
7.

■雑誌編集

1. 査読付学術雑誌「Journal of Computational Social Science」(JCSS)」 Editor–in-Chief
2. 査読付学術雑誌「International Journal of Economic Theory (Wiley) 」 Editor–in-Chief
3. 経済理論専門誌「Economic Theory」の Associate Editor
4. 経済理論専門誌「Economic Theory Bulletin」 Associate Editor
5. 経済理論専門誌「Macroeconomic Dynamics」 Associate Editor

6. 経済理論専門誌「Mathematical Social Sciences」 Associate Editor

■学外委員

1. 科学技術振興機構　戦略的創造研究推進事業「ACT-X」研究領域「[AI 活用学問革新創成]AI 活用で挑む学問の革新と創成」　領域アドバイザー

＜受賞＞

1. 令和 5 年度第 15 回神戸大学学長表彰　財務貢献者 2023 年 10 月

教授　　北野　重人（Shigeto KITANO）

・計算社会科学研究センター／シミュレーション部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著　書】

『入門　国際経済 Q&A 100』（坂出健・松林洋一と共編著）中央経済社　2023 年 9 月

【論　文】

■レフェリー付論文

■　掲載済

1. “Effect of Sovereign Wealth Funds in Commodity-Exporting Economies when Commodity Prices Affect Interest Spreads,” (with Kenya Takaku), Asian Economic Journal, Vol.37, Issue 3, pp.267-292, September 2023

■未掲載論文

1. “Commodity Prices, Financial Frictions, and Macroprudential Policies,” (with Kenya Takaku), RIEB Discussion Paper Series No.2023-21, 47pp., December 2023
2. “Capital Controls or Macroprudential Regulation: Which is Better for Land Booms and Busts?,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2023-12, 56pp., April 2023
3. “Effectiveness of Capital Controls: Gates versus Walls,” (with Yang Zhou), RIEB Discussion Paper Series No.2022-38, 23pp., December 2022 (Revised April 2023)

＜学会報告等研究活動＞

■報告（学会報告/会議報告）

1. （座長）Session 4: Development Economics, 2023 Symposium on Economics and Finance in the Asia-Pacific (The 9th Hanyang-Kobe-Nanyang Extended Conference), Nanyang Technological University　2023 年 11 月 28 日
2. （学会副座長）セッション：国際金融（1）日本金融学会 2023 年度秋季大会　九州大学　2023 年 9 月 30 日
3. （学会報告）“Effectiveness of Capital Controls: Gates versus Walls,” WEAI 98th Annual Conference（オンライン開催）2023 年 7 月 1 日
4. （学会コメント）“Credit Constraints, Corporate Transparency and Export: Evidence from China’s A-Listed Firms (Yikai Zhao),” WEAI 98th Annual Conference（オンライン開催）2023 年 7 月 1 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. American Economic Association
2. 日本経済学会
3. 日本金融学会
4. 日本国際経済学会

5. IEFS JAPAN

■学内外委員
・日本金融学会国際金融部会幹事（2018 年～）
・神戸大学金融研究会幹事（2010 年～）

■学術論文レフリー
・Journal of Money, Credit, and Banking
・Journal of International Money and Finance
・Journal of Macroeconomics
・Journal of Economics
・The Manchester School
・Review of Development Economics
・Japanese Economic Review
・Japanese Journal of Monetary and Financial Economics
・International Economic Journal
・Japan and the World Economy
・The B.E. Journal of Macroeconomics
・Emerging Markets Finance and Trade
・Economic Modelling
・Open Economies Review
・Economics Bulletin

<受賞歴>
2024 年 3 月　Top Downloaded Article on “Financial Market Incompleteness and International Cooperation on Capital Controls”, (with Kenya Takaku), International Journal of Economic Theory, Wiley

教授　　飯塚　敦（Atushi IIZUKA）

・計算社会科学研究センター/シミュレーション部門
・都市安全研究センター

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■掲載論文（査読なし）

□掲載論文

1. デコルマ帯での間隙水圧上昇に伴う滑り現象の力学解析
地盤工学研究発表会(Web) **巻：** 58th **ページ：** ROMBUNNO.13-4-2-07 (WEB ONLY) **発行年：** 2023 年

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

■報告（学会報告/会議報告）

＜社会活動＞

■所属学会

1.国際開発学会
2.応用生態工学会
3.緑化工学会
4.植生学会
5.米国土木学会
6.土木学会
7.地盤工学会

■学外委員

1. 国際地盤工学会，Technical Committee TC6（Unsaturated soils）Core member
2. 国土交通省社会資本整備審議会道路分科会近畿地方小委員会委員
3. 国土交通省社会資本整備審議会専門委員
4. 国土交通省近畿地方整備局，総合評価委員会委員
5. 国土交通省近畿地方整備局，港湾空港部門総合評価委員会委員
6. 国土交通省近畿地方整備局，災害時建設業事業継続力認定委員会委員
7. 国土交通省近畿地方整備局，総合評価委員会専門部会委員
8. 国土交通省近畿地方整備局，兵庫ブロック総合評価委員会委員長
9. 国土交通省近畿地方整備局
10. 阪神高速道路株式会社　大阪湾岸道路西伸部技術検討委員会基礎構造小委員会委員
11. 兵庫県，ひょうご安全の日推進事業，計画等策定支援専門家委嘱
12. 兵庫県公共事業等審査会会長
13. 社団法人全日本建設技術協会，公共工事品質確保技術者資格試験委員
14. 独立行政法人防災科学研究所兵庫耐震工学研究センター，数値振動台研究開発分科会

15. 地盤 WG 主査
16. 財団法人原子力環境整備促進・資金管理センター，地下空洞型処分施設性能確証試験検討委員会委員
17. 公益財団法人原子力安全研究協会処分システム安全研究所，NUMO 包括的技術報告書レビュー特別専門委員会委員
18. 国立研究開発法人海洋研究開発機構，数理科学・先端技術研究分野　上席招聘研究員
19. 一般財団法人建設工学研究所・所員
20. 一般財団法人災害科学研究所・研究員
21. 一般社団法人 FLIP コンソーシアム・顧問
22. 日刊工業新聞，(社)近畿建設協会，建設技術展近畿，マイドーム大阪，注目技術審査員橋梁コンテスト審査委員会委員長
23. （独）日本学術振興会，科学研究費委員会第 25 小委員会審査委員

■学外営利企業の役員

1. 神戸大学発ベンチャー企業，東京ジオテク株式会社，取締役
2. 都市丸ごとシミュレーション技術研究組合　代表理事

教授　　大石　哲（Satoru OISHI）

・計算社会科学研究センター/シミュレーション部門
・都市安全研究センター

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

1. Combining Deep Learning and Numerical Simulation to Predict Flood Inundation Depth
Bruno Adriano, Naoto Yokoya, Kazuki Yamanoi, Satoru Oishi
IGARSS 2023 - 2023 IEEE International Geoscience and Remote Sensing Symposium 1154-1157 2023 年 7 月 16 日

2. STATISTICAL DOWNSCALED LOCAL CLIMATE MODEL FOR FUTURE RAINFALL CHANGES ANALYSIS: A CASE STUDY OF HYOGO PREFECTURE, JAPAN
Ng P.Y, Tan K.W, Oishi S, Huang Y.F
Global NEST: the international Journal 25(5) 136-146 2023 年 2 月 10 日

3. An analytical representation of raindrop size distribution in a mixed convective and stratiform precipitating system as revealed by field observations
Okazaki, M., Oishi, S., Awata, Y., Yanase, T., Takemi, T.
Atmospheric Science Letters 24(6) 2023 年

【その他】

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

1. (基調講演)「防災デジタルツイン自動作成による災害シミュレーション自動実行システムの構築」，防災減災の国際連続ワークショップ MIRAI BOSAI 2024，2024 年 3 月 2～3 日，神戸大学百年記念館　六甲ホール/オンライン同時配信

2. (研究計画紹介)「研究開発テーマ E-1-1:防災デジタルツイン自動作成による災害シミュレーション自動実行システムの構築」SIP「スマート防災ネットワークの構築」キックオフシンポジウム，2024 年 11 月 7 日　アリストンホテル神戸 主催：内閣府、防災科学技術研究所

■報告（学会報告/会議報告）

1.SCALE を用いた神戸市の夏季熱環境評価 − その２：神戸市沿岸域における局地循環−
足立幸穂, 西澤誠也, 大石哲, 富田浩文
日本気象学会 2023 年度秋季大会 2023 年 10 月 23 日

2.SCALE を用いた神戸市の夏季熱環境評価
足立幸穂，佐賀真理子，大石哲，富田浩文
日本気象学会 2023 年度春季大会 2023 年 5 月 16 日

■記事（解説/コメント/インタビュー記事/寄稿）

1. 読売新聞オンライン　『万博の熱中症リスク、毎日 5m四方のエリアごとに危険度表示…仮想空間に再現した会場で予測』2024 年 2 月 19 日

2. 朝日放送テレビ『news おかえり　特集コーナー』スパコン「富岳」が見せる“津波シミュレーション”南海トラフ地震から命を守る最新研究に肉薄！2024 年 3 月 8 日

3. 日本経済新聞「リニア掘削調査「進めるべき」、静岡県部会で委員が意見」2023 年 6 月 7 日

＜社会活動＞

■所属学会
1.国際水圏環境工学研究会（IAHR）
2.土木学会
3.水文・水質源学会
4.日本気象学会
5.米国地球物理学会（AGU）
6.米国気象学会（AMS）
7.砂防学会

■学会役員
1. 国際水圏環境工学研究会（IAHR）水資源マネジメント研究部会　部会長
2. 土木学会水工学委員会水害対策小委員会委員長

■学外委員/チーム
・理化学研究所　計算科学研究センター　総合防災・減災研究チーム　チームリーダー
・兵庫県武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会座長
・阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会会長
・静岡県河川審議会会長

教授　　貝原　俊也（Toshiya KAIHARA）
・計算社会科学研究センター/シミュレーション部門
・大学院システム情報学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

- A Discrete-Event Simulation Study of Multi-Objective Sales and Operation Planning Under Demand Uncertainty: A Case of the Ethiopian Automotive Industry
  Yigedeb Abay, Toshiya Kaihara, Daisuke Kokuryo
  International Journal of Automation Technology 18(1) 135-145 2024 年 1 月 5 日

1. 需要の不確実性下におけるリソースシェアリングを伴うマルチサプライヤ協調型物流ネットワークに関する研究（第 2 報，共同貨物輸送方式の比較と費用配分手法の提案）
   伊東 明日美, 貝原 俊也, 國領 大介
   日本機械学会論文集 90(929) 1-13 2024 年 1 月

2. 生産システムシミュレーションにおけるデータ駆動型マルチスケールモデリングアプローチの提案（単工程システムを対象としたモデル同定に関する基礎検討）
   永原 聡士, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 國領 大介
   日本機械学会論文集 89(928) 1-12 2023 年 12 月

3. A study on multi-scale modeling in social simulation focusing on relationships among decision-makers
   Gaku Shimizu, Toshiya Kaihara, Daisuke Kokuryo, Nobutada Fujii
   Social Simulation Conference 2022(SSC2022) 33-47 2023 年 9 月 30 日

4. A Proposal of Resilient Supply Chain Network Planning Method with Supplier Selection and Inventory Levels Determination Using Two-Stage Stochastic Programming
   Hibiki Kobayashi, Toshiya Kaihara, Daisuke Kokuryo, Rina Tanaka, Masashi Hara, Yuto Miyachi, Puchit Sariddichainunta
   IFIP Advances in Information and Communication Technology 714-729 2023 年 9 月

5. A Proposal for Production Scheduling Optimization Method with Worker Assignment Considering Operation Time Uncertainty
   Daiki Nagata, Toshiya Kaihara, Daisuke Kokuryo, Toyohiro Umeda, Houei Mizuhara
   APMS203 International Conference Advances in Production Management Systems 760-774 2023 年 9 月

6. 需要の不確実性下におけるリソースシェアリングを伴うマルチサプライヤ協調型物流ネットワークに関する研究
   伊東 明日美, 貝原 俊也, 國領 大介, 藤井 信忠
   日本機械学会論文集 89(923) 1-15 2023 年 7 月

7. Toward Data-Driven and Multi-Scale Modeling for Material Flow Simulation: Comparison of Modeling Methods (I)
Satoshi Nagahara, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo
The 22nd World Congress of the International Federation of Automatic Control(IFAC 2023) 8481-8486 2023 年 7 月

8. A Discrete Event Simulation Study of Multi-Objective Sales and Operation Planning: A Case of Ethiopian Automotive Industry (I)
Yigedeb Abay Tesfu, Toshiya Kaihara, Daisuke Kkuryo, Nobutada Fujii
The 22nd World Congress of the International Federation of Automatic Control(IFAC 2023) 8473-8480 2023 年 7 月

9. Dispatching Rules Selection Mechanism Using Support Vector Machine for Genetic Programming in Job Shop Scheduling (I)
Shady Salama, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo
The 22nd World Congress of the International Federation of Automatic Control(IFAC 2023) 8461-8466 2023 年 7 月

10. A Study on Collaborative Logistics Network Design with Truck Sharing under Demand Uncertainty (I)
Asumi Ito, Toshiya Kaihara, Daisuke Kokuryo, Nobutada Fujii
The 22nd World Congress of the International Federation of Automatic Control(IFAC 2023) 5712-5717 2023 年 7 月

11. A PROPOSAL OF PRODUCTION SCHEDULING METHOD CONSIDERING MULTIPLE DECISION CRITERIA USING ASPIRATION LEVEL APPROACH
Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daichi Itaya, Toyohiro Umeda
International Symposium on Scheduling 2023 133-138 2023 年 6 月

12. 生産性と電力消費に対する生産計画者の意思決定基準を反映したスケジューリング手法の一提案
薮内 雅幸, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 國領 大介
システム制御情報学会論文誌 36(3) 81-90 2023 年 3 月

13. Feature selection approach for evolving reactive scheduling policies for dynamic job shop scheduling problem using gene expression programming
Salama Shady, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daisuke Kokuryo
International Journal of Production Research 61(15) 5029-5052 2023 年

□掲載予定論文（Forthcoming）

■掲載論文（査読なし）

1. 価値創造によるスマートものづくりと DX 貝原 俊也 2023 年度精密工学会秋季大会学術講演論文集 784-785 2023 年 9 月 招待有り

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演/発表/口頭発表）

（招待講演）

1. 価値創造によるスマートものづくりと DX 貝原 俊也
2023 年度精密工学会秋季大会学術講演論文集 784-785 2023 年 9 月

2. JST 未来社会創造事業「デジタル社会実験」プロジェクトによる健幸都市の実現
貝原 俊也　第 34 回社会システム部会研究会 2024 年 3 月 11 日 **招待有り**

(会議報告)

1. Proposal of Semi-Automatic Blood Vessel Tracking Method Considering Displacement from Respiratory Movement
Shiraishi, Kakeru, Kokuryo , Daisuke, Kaihara, Toshiya, Fuji , Nobutada, Watanabe, Ruriko, Kumamoto, Etsuko
URSI GASS2023 2023 年 8 月

2. (Invited) A proposal of Focal Point Prediction Method using Compressed Sensing Technique
Kokuryo, Daisuke, Nakagawa, Yusuke, Kaihara, Toshiya, Fujii , Butada, Kumamoto, Etsuko
URSI GASS2023 2023 年 8 月

3. コミュニティバス事業を対象としたエージェントベースシミュレーションによる高齢者の交通利便性の分析 -京都府八幡市を対象に-
岡田浩一, 貝原俊也, 國領大介
第 34 回社会システム部会研究会 2024 年 3 月 11 日

4. マルチスケール社会シミュレーションを用いた地域活性化のための政策立案支援～対象都市のモデル化と ABM による日常行動の可視化～
神部尚樹, 貝原俊也, 國領大介
第 34 回社会システム部会研究会 2024 年 3 月 11 日

5. 強靭性を有するサプライチェーンネットワークの設計に関する研究 -最適性と計算効率の向上を目指して-
小林 響生, 貝原 俊也, 國領 大介, 田中 里奈, 原 昌史, 宮地 優斗, サリッディチャイナンター, プーチット
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2024 2024 年 3 月 5 日

6. 粒子群最適化と確率的 PERT を組み合わせたジョブショップスケジューリング
永田大貴, 貝原俊也, 國領大介, 梅田豊裕, 水原宝英
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2024 2024 年 3 月 5 日

7. 生産システムシミュレーションにおけるデータ駆動型マルチスケールモデリングの実現に向けたモデリング手法の比較評価
永原 聡士, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 國領 大介
日本機械学会生産システム部門研究発表講演会 2024 2024 年 3 月 4 日

8. MR 画像を用いた変位情報に基づく肝臓動態推定手法
白石 翔, 國領大介, 貝原俊也, 熊本悦子
電子情報通信学会_医用画像研究会 2024 年 3 月 4 日

9. 木材流通における作業効率化のための画像処理を用いた木材最小径計測手法に関する研究
山口凌央, 渡邉るりこ, 渡邉俊介, 藤井信忠, 國領大介, 貝原俊也, 角南泰弘
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023（SSI2023）
2023 年 11 月 11 日

10. 駐車場利用実態分析のためのセグメンテーションを用いた駐車状況可視化手法
木村和真, 藤井信忠, 渡邉俊介, 國領大介, 貝原俊也, 渡邉るりこ, 多田暁, 中村隆之
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023（SSI2023）
2023 年 11 月 11 日

11. 社会シミュレーションを用いた地方都市活性化政策に対する意思決定支援に関する研究～システムダイナミクスによる健康づくり政策の因果分析～
神部尚樹, 貝原俊也, 國領大介
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023（SSI2023）
2023 年 11 月 11 日

12. 仮想コミュニティが歩行運動習慣の獲得に与える効果の可視化と解析
貝原俊也, 國領大介, 山野上恵, 原野健一, 野村泰弘
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023（SSI2023）
2023 年 11 月 11 日

13. 公共交通を基点としたシステム間連携による社会的価値創出に向けて-地方自治体における課題の整理とその可視化-
岡田浩一, 貝原俊也, 國領大介
計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 2023（SSI2023）
2023 年 11 月 11 日

14. 磁気共鳴シミュレーションを用いた生体組織固有パラメータの複数同時推定法の検討
國領 大介, 作田 隼樹, 佐藤 千佳, 新田 展大, 板橋 貴史, 齋藤 茂芳, 八幡 憲明, 小畠 隆行, 貝原 俊也, 熊本 悦子
第 51 回日本磁気共鳴医学会大会 2023 年 9 月 23 日

15. チェーン工場を対象とした多品種生産スケジュール手法
舟橋慧人, 渡邉るりこ, 渡邉俊介, 藤井信忠, 國領大介, 貝原俊也
2023 年度精密工学会秋季大会学術講演会 2023 年 9 月 13 日

16. 駐車場利用履歴を用いた地域活性化に関する研究―ペイジアンネットワークを用いた店舗推薦システムによるアプローチ―
滝澤晴世, 渡邉るりこ, 渡邉俊介, 藤井信忠, 國領大介, 貝原俊也, 藤岡義己, 今福貴大
2023 年度精密工学会秋季大会学術講演会 2023 年 9 月 13 日

17. 工場内負荷調整を考慮した多目的最適化による生産計画手法の特性評価
國領 大介, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 村上 亘, 梅田 豊裕, 水原 宝英
スケジューリング・シンポジウム 2023 2023 年 9 月 12 日

18. 圧縮センシングを適用した磁気共鳴画像を用いた加温位置追尾精度の検討
國領 大介, 仲川 侑介, 貝原 俊也, 熊本 悦子
日本ハイパーサーミア学会第 40 会大会 2023 年 9 月 8 日

19. 余剰電力と電力コスト削減のための二段階確率計画法による電力運用最適化手法の特性解析
西川綾乃, 貝原俊也, 國領大介
2023 年度関西地方定期学術講演会 2023 年 6 月 23 日

20. 二段階確率計画法を用いた資材調達先選定と在庫水準決定によるサプライチェーンネットワーク設計手法の強靭性評価
小林響生, 貝原俊也, 國領大介, 田中里奈, 原昌史, 宮地優斗, サリッディチャイナンター, プーチット
2023 年度関西地方定期学術講演会 2023 年 6 月 23 日

21. 処理時間の不確実性を考慮した作業者配置を含むジョブショップスケジューリング手法に関する研究
永田大貴, 貝原俊也, 國領大介, 梅田豊裕, 水原宝英
2023 年度関西地方定期学術講演会 2023 年 6 月 23 日

22. 画像処理を用いた木材の径級分類に関する研究
山口 凌央, 渡邉 るりこ, 藤井 信忠, 國領 大介, 貝原 俊也, 角南 泰弘
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 19 日

23. JST 未来社会創造事業「デジタル社会実験」プロジェクトへの誘い
貝原 俊也
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 19 日

24. MR 画像による変位情報を用いた肝臓内血管位置予測手法の提案
白石 翔, 國領 大介, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 渡邉 るりこ, 熊本 悦子
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 18 日

25. 磁気共鳴シミュレーションを用いた生体組織固有値推定法の改良
國領 大介, 作田 準樹, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 渡邉 るりこ, 熊本 悦子
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 18 日

26. 映像情報を用いた駐車場の利用状況分析手法に関する研究
木村 和真, 藤井 信忠, 渡邉 るりこ, 國領 大介, 貝原 俊也, 多田 暁, 中村 隆之
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 17 日

27. 余剰電力削減を目指す不確実性を考慮した電力運用最適化手法の一提案
貝原 俊也, 國領 大介, 藤井 信忠, 渡邉 るりこ, 西川 綾乃
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 17 日

28. 強靭性を有するサプライチェーンネットワークに関する研究
小林 響生, 貝原 俊也, 國領 大介, 藤井 信忠, 渡邉 るりこ, 田中 里奈, 原 昌史, 宮地 優斗, サリッディチャイナンター, プーチット
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 17 日

29. 処理時間の不確実性を考慮した作業者配置を含むジョブショップスケジューリング手法に関する評価
永田 大貴, 貝原 俊也, 藤井 信忠, 國領 大介, 渡邉 るりこ, 梅田 豊裕, 水原 宝英
第 67 回システム制御情報学会研究発表講演会（SCI'23） 2023 年 5 月 17 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. IFAC (International Federation of Automatic Control)
2. 日本工学アカデミー
3. サービス学会
4. CIRP (Collége International pour la Recherche en Productique)
5. IFIP (International Federation of Information Processing)
6. IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers)
7. 日本設備管理学会
8. スケジューリング学会
9. 経営情報学会
10. 日本オペレーションズリサーチ学会
11. 計測自動制御学会
12. システム制御情報学会
13. 電気学会
14. 精密工学会
15. 日本機械学会

■学会役員・委員

2020 年 7 月 - 現在　日本工学アカデミー, 会員
2020 年 4 月 - 現在　精密工学会, 代議員
2018 年 4 月 - 現在　日本機械学会, 生産システム部門 部門長 (2018-2019), フェロー (2019-)
2015 年 5 月 - 現在　電気学会, 電子・情報・システム部門システム技術委員会 委員長(2015-2021), フェロー(2022-)
2012 年 8 月 - 現在　国際生産工学アカデミー (CIRP), 会員 (2012-2020), フェロー (2020-)
2007 年 8 月 - 現在　日本学術会議, 自動制御の多分野応用小委員会 委員

■受賞

1. 2024 年 3 月　精密工学会 功労賞, 精密工学会
2. 2023 年 6 月
   Best Paper Award of Scheduling Practice in ISS2023, A Proposal of Production Scheduling Method considering Multiple Decision Criteria using Aspiration Level Approach, スケジューリング学会
   Daisuke Kokuryo, Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, Daichi Itaya, Toyohiro Umeda

教授　　横川　三津夫（Mitsuo YOKOKAWA）

・計算社会科学研究センター/シミュレーション部門
・大学院システム情報学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■掲載論文（査読あり）

1. I/O Performance Evaluation of a Memory-Saving DNS Code on SX-Aurora TSUBASA

   Mitsuo Yokokawa, Yuki Yamane, Kenta Yamaguchi, Takashi Soga, Taiki Matsumoto, Akihiro Musa, Kazuhiko Komatsu, Takashi Ishihara, Hiroaki Kobayashi2023 IEEE International Parallel and Distributed Processing Symposium Workshops (IPDPSW) 2023 年 5 月

2. Performance evaluation of parallel direct numerical simulation code on supercomputer SX-Aurora TSUBASA

   Mitsuo Yokokawa, Yujiro Takenaka, Takashi Ishihara, Kazuhiko Komatsu, Hiroaki KobayashiComputers & Fluids 261 105913-105913 2023 年 4 月

■掲載論文（査読なし）

1. 圧縮性乱流直接数値シミュレーションコードの 3 軸並列化とその評価

   松本泰生，竹上諒，横川三津夫(神戸大学大学院システム情報学研究科)、櫻井幹記(横浜国立大学大学院環境情報研究院)、石原卓(岡山大学大学院環境生命科学研究科)情報処理学会研究報告, Vol.2023-HPC-191, No. 8 (2023) 2023 年 9 月

2. 3 次元非圧縮一様等方性乱流大規模 DNS における丸め誤差の影響

   岡本直也，石原卓，横川三津夫，金田行雄，日本流体力学会 2023，pp. 1-3 (2023)//

3. 圧縮性乱流直接数値シミュレーションのスカラプロセッサ用コードの開発と性能評価

   竹上諒，松本泰生，横川三津夫，櫻井幹記，石原卓，，Vol. 2024-HPC-193, No.4, pp. 1-8 (2024)

4. 高速フーリエ変換ルーチンの 3 軸並列実装と性能評価および圧縮性乱流 DNS コードへの適用

   坂野智紀，横川三津夫，今村俊幸，竹上諒，松本泰生，櫻井幹記，石原卓，，Vol. 2024-HPC-193, No.5 pp. 1-8 (2024)

5. Effects of arithmetic precision in large-scale direct numerical simulation of incompressible turbulence in a periodic box

   T. Ishihara, N. Okamoto, M. Yokokawa, and Y. Kaneda,x, 76th Annual Meeting of the Division of Fluid Dynamics, November 19-21, 2023, Washington DC, USA (2023)

6. Performance Evaluation of Three-dimensional Fast Fourier Transforms by Three-dimensional Domain Decomposition

   T. Sakano, M. Yokokawa, T. Imamura, Y. Sakurai, T. Ishihara, The 6th R-CCS International symposium, January 29-30, Kobe, Japan (2024)

＜社会活動＞

■所属学会

1. 一般社団法人日本流体力学会
2. 一般社団法人情報処理学会
3. 米国 ACM 学会

■学外委員

- 理化学研究所計算科学研究センター・客員主管研究員
- 公益財団法人計算科学振興財団・理事
- 神戸医療産業都市推進機構運営委員会・委員
- インダストリスパコン推進センター アドバイザー

■受賞

・一般社団法人情報処理学会　フェロー就任（2023 年 3 月 24 日付）

教授　　佐野　英樹（Hideki SANO）

・計算社会科学研究センター/シミュレーション部門
・大学院システム情報学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

1. Observer design for an infectious disease PDE model considering reinfection
   Hideki Sano, Toshikazu Kuniya
   Automatica 155 Paper No. 111091 2023 年 9 月

2. Common encryption key generation and secure communication using PDE chaotic synchronization
   Hideki Sano　IFAC-PapersOnLine 56-2 (Proceedings of the 22nd IFAC World Congress) 9942-9947 2023 年 7 月

3. 集中系・分布系のカオス同期化を用いた RGB 画像の秘匿通信
   佐野 英樹, 原下 友輔　計測自動制御学会論文集 59(6) 297-304 2023 年 6 月

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

（招待講演）

1. 公益社団法人日本技術士会近畿本部兵庫県支部主催「第４１回ＣＰＤ講座」
   ２０２３年５月２６日（金）１８：３０～２０：００
   「カオス暗号に関する最近の研究動向について」
   佐野 英樹 博士（工学） 神戸大学大学院システム情報学研究科システム科学専攻 教授

2. Observers for hyperbolic systems with two delays in the nonlocal boundary condition and its application
   佐野 英樹, Jeanne Redaud　2023 年度 RIMS 研究集会「時間遅れ系と数理科学：理論と応用の新たな展開に向けて」 2023 年 10 月 19 日 **招待有り**

■報告（学会報告/会議報告）

1. カオス同期化と最小二乗法を用いた画像・音声データの秘匿通信小池 竜太朗, 佐野 英樹　第 11 回計測自動制御学会制御部門マルチシンポジウム 2024 年 3 月 18 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. The Mathematical Society of Japan
2. The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
3. The Society of Instrument and Control Engineers
4. The Institute of Systems, Control and Information Engineers

5. 日本数学会
6. 日本応用数理学会
7. 計測自動制御学会
8. システム制御情報学会

教授　　西谷　公孝（Kimitaka NISHITANI）

・計算社会科学研究センター／データ分析部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著書（分担執筆）】

1. 「サステナビリティ経営の実践に向けた示唆」（家森信善・柴本昌彦との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 3 章　69-75 頁　2024 年 3 月
2. 「サステナビリティ経営のベストプラクティス」（家森信善・柴本昌彦との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 2 章　42-68 頁　2024 年 3 月
3. 「中小企業のサステナビリティ経営の状況：大同生命サーベイの結果から」（家森信善・柴本昌彦との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 1 章　2-41 頁　2024 年 3 月

【論　文】

■レフェリー付論文

掲載済

1. “Do consumers really pay for SDGs? Re-evaluating consumer behaviour using surveys in the USA, Germany, and Japan,” (coauthored with Nakamura, E. and Mizutani, F.), CESifo Economic Studies, Vol. 69, Issue 3, pp.158-176, September 2023
2. “How material flow cost accounting contributes to the SDGs through improving management decision-making,” (coauthored with Kokubu, K., Kitada, H., and Shinohara, A.), Journal of Material Cycles and Waste Management, Vol. 25, pp.2783-2793, September 2023

■掲載予定論文

1. “Does the economic motivation of firms to address the United Nations’ Sustainable Development Goals (SDGs) promote the SDGs or merely SDG-washing? Critical empirical evidence from Japan and Vietnam,” (coauthored with Nguyen, T.B.H. and Kokubu, K.), Review of Managerial Science, forthcoming

□未掲載論文(DP/WP)

1. “The Contribution of Environmental Management Control Systems to Sustainable Development Goals Through Sustainable Consumption and Production: An Empirical Analysis of Companies in Thailand, Vietnam, Japan, and Germany,” (coauthored with Guenther, T., Wu, Q., Guenther, E., and Kokubu, K.), RIEB Discussion Paper Series, DP2023-18, 43pp., August 2023

【その他】

<学会報告等研究活動>

1. （パネリスト）「パネルディスカッション『これからの日本の人的資本経営の在り方を考える』」人的資本経営研究教育センター開設記念シンポジウム「人的資本経営を問い直す」　神戸大学　2024 年 3 月 2 日
2. （講演）「女性活躍を阻害する制度的要因とその解消に向けた人的資本情報開示の在り方」人的資本経営研究教育センター開設記念シンポジウム「人的資本経営を問い直す」神戸大学　2024 年 3 月 2 日
3. （パネリスト）「パネルディスカッション『サステナブル経営の実現に向けて』」日本学術会議公開シンポジウム「サステナブル経営の実現をめざして」　筑波大学　2023 年 9 月 24 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. 環境経済・政策学会
2. 日本社会関連会計学会
3. 日本 LCA 学会
4. 日本会計研究学会

＜国際交流活動＞

・「環境情報開示の日米比較研究」國部克彦（神戸大学）、Jin Dong Park（タウソン大学）と共同研究

・「日本・ドイツ企業における経営管理と環境マネジメントの関係に関する国際比較研究」國部克彦（神戸大学）、梶原武久（神戸大学）、北田皓嗣（法政大学）、Thomas Guenther（ドレスデン工科大学）、Edeltraud Guenther（国連大学）他と共同研究

・「アジアにおける企業の環境経営モデルの展開とステークホルダーによる導入支援方策に関する研究」國部克彦（神戸大学）、Nguyen Thi Bich Hue（貿易大学）、Pakpong Pochanart（National Institute of Development Administration）他と共同研究

教授　　中川　丈久（Takehisa NAKAGAWA）

・計算社会科学研究センター/データ分析部門

・大学院法学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■掲載論文（査読なし）

□掲載論文

1. 座談会・製品安全への取り組みと今後の課題
中川丈久　国民生活研究 63 巻 2 号 1〜16 頁　共著　2023 年 12 月 25 日

2. 行政処分の理由附記義務違反による取消判決の近時の例（ニ・完）
中川丈久　自治研究 99(12) 40-63 2023 年 12 月 筆頭著者

3. 行政処分の理由附記義務違反による取消判決の近時の例（一）
中川丈久　自治研究 99(11) 43-62 2023 年 11 月 筆頭著者

4. 行政指導――行政手続法第４章の見直しについて
中川丈久　行政法研究 (51) 43 2023 年 8 月 招待有り筆頭著者

5. 座談会・景品表示法の改正および運用改善について
中川丈久　ジュリスト (1587) 14-36 2023 年 8 月 招待有り筆頭著者

6. 鼎談・ステルスマーケティングの規制が始まる
中川丈久ジュリスト 1584 号 ii〜v 頁，60-73 頁　共著　2023 年 05 月 01 日

7. 景品表示法検討会等のとりまとめに当たって
中川丈久　公正取引 (870) 11-16 2023 年 4 月 招待有り最終著者

＜学会報告等研究活動＞

■報告（学会報告/会議報告）

日本公法学会・総会報告（2023 年 11 月）

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本消費者法学会
2. 日米法学会
3. 日本公法学会

■学会役員

1. 日本消費者法学会・理事
2. 日米法学会・理事

■雑誌編集

1. 民商法雑誌　編集委員

■学外委員

1. 消費者庁・消費者安全調査委員会（“消費者事故調”）委員長（2018 年 10 月～）
2. 文部科学省　中央教育審議会・法科大学院等特別委員会・委員（2019 年 6 月～）
3. 文部科学省　教科用図書検定調査審議会・臨時委員（2020 年 4 月～）
4. 兵庫県行政不服審査会・会長
5. 兵庫県情報公開・個人情報保護審査会・会長
6. 兵庫県本人確認情報保護審議会・会長
7. 豊中市情報公開・個人情報保護審査・委員

教授　　栗木　契（Kei KURIKI）

・計算社会科学研究センター/データ分析部門
・大学院経営学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■掲載論文（査読なし）
□掲載論文

1. ＜経営の視点＞イノベーションに挑むためのマーケティング・リサーチ「季刊ひょうご経済」第 161 号　2024 年 1 月

2. ＜経営の視点＞リクルートのスタディサプリが面白い　「季刊ひょうご経済」第 160 号 2023 年 10 月

3. ＜経営の視点＞失敗に学ぶマーケティング「季刊ひょうご経済」第 159 号　2023 年 7 月

4. ＜経営の視点＞マーケティング・リサーチがイノベーションを促進するためには、何が必要か　「季刊ひょうご経済」第 158 号 2023 年 4 月

【その他】

President Online2023

1. アフリカでは「エアコンのサブスク」が正解だった…ダイキンがたどり着いた「高価な日本製品」の正しい売り方 10 台中 7 台のエアコンが「ゾンビ化」していた
PRESIDENT Online　＃44　2024/02/23 11:00

2. 広島発祥の「お好みソース」はなぜ全国制覇できたのか…後発のオタフクソースが採用した「驚きの経営手法」「開発は社内で」というこだわりを捨てた
PRESIDENT Online　＃43　2024/01/23 11:00

3. アイデアに詰まったら"超少数派"に聞け…商品開発の最終兵器「エクストリーマー・リサーチ」とは何か"極端"のなかにマーケティング上の「核心」がある
PRESIDENT Online　＃42　2023/11/18 9:00

4. 最新型なのになぜか旧型よりも安くなる…「トヨタのサブスク」KINTO で始まったプリウスの驚きの仕掛けリース後の「残存価値」をアップできる仕組み
PRESIDENT Online　＃41　2023/09/24 10:00

5. なぜ東京・丸の内のオフィスビルは日本で一番高いのか…三菱地所が新規事業にやけに熱心な本当の理由オフィスの新しい使い方を自ら開拓している
PRESIDENT Online　＃40　2023/08/27 9:00

6. ピンチはチャンスになる…年 2 万人の来園がゼロになった山形の観光農園が「過去最高

売上」を記録するまで「さくらんぼ社長の経営革命」の中身
PRESIDENT Online　#39　2023/07/25 15:00

7. ChatGPT に神戸大 MBA の宿題を解かせた結果…大学教授が「これでは合格点は出せない」と結論づけた理由あいまいで抽象度の高い表現が目立つ
PRESIDENT Online　#38　2023/05/14 10:00

MAG2NEWS

1. 魚フライ 500 個を売り切った戦略。セブンイレブンが活用する「仮説-検証」の力
2023 年 4 月 29 日

2. 全米が激怒したコカ・コーラ 1985 年の大失敗。ニュー・コーク騒動に学ぶマーケティングの醍醐味 2023 年 6 月 24 日

3. リクルートの「スタサプ」に学ぶ、予測が通用しない市場でのマーケティング展開法
2023 年 9 月 12 日

4. 「ネスカフェ アンバサダー」「マスキングテープ」が好例。“日本発のイノベーション”から学べること　2024 年 1 月 18 日

＜学会報告等研究活動＞
■研究会

現代経営学研究所　研究会

1. 2024 年 1 月 17 日 RIAM ビジネススクール　個別専門科目プログラム　2024 年度

RIAM ビジネススクール　個別専門科目プログラム RIAM 個別専門科目プログラムでは、経営学の各分野に特化したオリジナルのプログラムを企画しています。 企業派遣はもちろん個人での受講も可能です。 マーケティング・エッセ […]

2. 2024 年 1 月 17 日　RIAM ビジネススクール　総合コース　第 21 期

RIAM ビジネススクール　総合コース 本ビジネススクールは、将来のゼネラルマネジャーを目指す方々を対象に、幅広い分野について学習していただくコースです。 長期間（1 年半）の神戸大学 MBA のプログラムからエッセンスを抽出し […]

3. 2023 年 8 月 8 日　プレ神戸大学 MBA 勉強会 第 3 期 のご案内

神戸大学 MBA の教員が集結して執筆した『プレ MBA の知的武装』は、MBA 入学前に学んでおきたい経営学の理論と方法論のエッセンスを詰め込んだ書籍です。今回の勉強会では、同書を教科書として、MBA を目指すあるいは MBA に関心 […]

4. 2023 年 5 月 30 日　進化するブランド輪読会のご案内

神戸大学大学院経営学研究科の教員が関心のある課題図書を指定して、Zoom によるオン

ラインで輪読会を開催します。 参加者全員が各々課題図書を読み込み、輪読会では、感想や意見を述べ、他者の意見を聴きディスカッションすることで […]

5.　2023 年 4 月 13 日　「プレ神戸大学 MBA 勉強会　第 2 期」のご案内

神戸大学 MBA の教員が集結して執筆した『プレ MBA の知的武装』は、MBA 入学前に学んでおきたい経営学の理論と方法論のエッセンスを詰め込んだ書籍です。この勉強会では、同書を教科書として、MBA を目指すあるいは MBA に関心が […]

■対談

株式会社ハル　2024 年 2 月 5 日

ハルのリクルート広報誌『ハルがきた』Vol.10 内で南海電気鉄道株式会社財務グループ ブランド統括部長の渡辺幸代様と対談

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本商品学会
2. 日本消費者行動研究学会
3. 組織学会
4. 日本商業学会
5. 日本マーケティング学会
6. 日本経営学会

■学会役員

1. 日本消費者行動研究学会理事
2. 日本商事学会幹事
3. 日本マーケティング学会理事

■雑誌編集

1. 消費者行動研究（日本消費者行動研究学会）副編集長
2. 一橋ビジネスレビュー編集委員

■学外営利企業の役員

1. 株式会社碩学舎取締役

教授　　小林　照義 （Teruyoshi KOBAYASHI ）

・計算社会科学研究センター/データ分析部門

・大学院経済学研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

1. “Financial fire sales as continuous-state complex contagion,” T. Onaga, F. Caccioli, T. Kobayashi, *Physical Review Research* 5, 043123, Nov 2023.

2. “Social contagion induced by uncertain information,” T. Kobayashi, *Physical Review E* 107, 064301, 2023.

3. “Consistency between ordering and clustering methods for graphs,” T. Kawamoto, M. Ochi and T. Kobayashi*, Physical Review Research* 5, 023006, 2023.

4. “Sequential locality of graphs and its hypothesis testing,” T. Kawamoto and T. Kobayashi, *Physical Review Research* 5, 023007, 2023. [Python code] [AI-based video tutorial]

5. “Dynamics of diffusion on monoplex and multiplex networks: A message-passing approach” (with Tomokatsu Onaga), *Economic Theory* 76, 251–287, 2023. [Matlab code]

■掲載論文（査読なし）

1. 甲斐田裕清、荻巣嘉高、小林照義 “モビリティネットワークの高密度化におけるスケーリング則” 計算社会科学 3, 2024.

2. 川本達郎、小林照義 “グラフにおける頂点順序並び替え問題” 『人工知能』（人工知能学会学会誌） 38.2 (2023): 165-171. [Link]

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

1. Ultra-densification in Temporal Social Networks
   Teruyoshi Kobayashi
   CCSS Workshop on Computational Social Science 2023 年 12 月 27 日 招待有り

2. 動的ネットワークにおけるレジーム推移
   小林照義
   ささしまセミナー 2023 年 6 月 9 日 招待有り

■研究会等報告

1. モビリティネットワークの高密度化におけるスケーリング則

   甲斐田裕清, 荻巣嘉高, 小林照義

   計算社会科学会 2024 年 2 月 20 日

2. 不確実性下の情報拡散モデル
   第 17 回数理モデリング研究会 2023 年 9 月 28 日

3. Propagation of Cost-Push Shocks in Production Networks
   小林照義
   SWET 2023 2023 年 8 月 11 日

4. A threshold model of information cascades under uncertainty
   Teruyoshi Kobayashi
   NetSci2023 Satellite Workshop "Network Structure" 2023 年 7 月 10 日

■所属学会
1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. Network Science Society
4. 計算社会科学会

■学会役員
1. 計算社会科学会理事

■雑誌編集・ジャーナル編集
1. PLOS ONE, Academic Editor

■受賞
2023 年 10 月
第 22 回ドコモ・モバイル・サイエンス賞（社会科学部門）優秀賞, モバイル・コミュニケーション・ファンド

教授　　柴本　昌彦（Masahiko SHIBAMOTO）

・計算社会科学研究センター／データ分析部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著書（分担執筆）】

1. 「サステナビリティ経営の実践に向けた示唆」（家森信善、西谷公孝との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 3 章　69-75 頁　2024 年 3 月
2. 「サステナビリティ経営のベストプラクティス」（家森信善、西谷公孝との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 2 章　42-68 頁　2024 年 3 月
3. 「中小企業のサステナビリティ経営の状況：大同生命サーベイの結果から」（家森信善、西谷公孝との共著）家森信善・山本聡編著『SDGs の時代に中小企業が輝く社会の実現を目指して　日本の中小企業のサステビリティ経営の実践とドイツ中小企業からの学び』中央経済社　第 I 部第 1 章　2-41 頁　2024 年 3 月

【論　文】

■レフェリー付論文
□掲載済
1. “Japan’s Monetary Policy: A Literature Review and Empirical Assessment,” (with Wataru Takahashi and Takashi Kamihigashi), *Journal of Computational Social Science*, Volume 6, Issue 2, pp.1215-1254, October 2023

■掲載論文（査読なし）
□未掲載論文(DP/WP)
1. “Measuring Trend Inflation Using Financial Condition: The Case of Japan,” *RIEB Discussion Paper Series* No.DP2024-11, Kobe University, March 2024

【その他】

1. （共同研究成果）家森信善監修『中小企業向け　サステナビリティ経営実践ガイド』大同生命株式会社　41 頁　2024 年 2 月
2. 「専門家意見　インフレ転換期の今だからこそ提言したい『2 つ』のこと」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2023 年 12 月度調査レポート～中小企業の課題解決は進展するも道半ば～』2 頁　2024 年 1 月
3. 「専門家意見　中小企業経営者にとっての『サステナビリティ経営』とは」『中小企業経営者アンケート「大同生命サーベイ」2023 年 10 月度調査レポート～「サステナビリティ経営」の認知度が大きく高まり、47%に！～』2 頁　2023 年 11 月
4. 「類まれなる研究環境である神戸大学」『凌霜』第 439 号　35-36 頁　2023 年 10 月

＜学会報告等研究活動＞

1. （報告）“Confidence Matters: Central Bank Economic Confidence and the Macroeconomy,” Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024, University of Amsterdam　2024 年 3 月 7 日
2. （副座長）「中央銀行パネル　AI、ビックデータと金融」日本金融学会 2023 年度秋季大会　九州大学　2023 年 10 月 1 日
3. （発表）“Inflation, Business Cycle, and Monetary Policy: The Role of Inflationary Pressure,” Monetary Economics Workshop (MEW)　（オンライン開催）　2023 年 4 月 15 日

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本経済学会
2. 日本金融学会
3. American Economic Association
4. Western Economic Association International
5. Royal Economic Society
6. Econometric Society
7. International Association for Applied Econometrics

■プログラム委員

1. 日本金融学会 2022 年度秋季大会大会運営委員・プログラム委員・中央銀行パネルセッション副座長

■雑誌編集

1. *Journal of the Japanese and International Economies (2)*
2. *Asian Economic Journal*
3. *Japanese Economic Review (2)*
4. *Japan and the World Economy*
5. *Asia-Pacifc Financial Markets*
6. *Macroeconomic Dynamics*
7. *Review of Development Economics*

■参加プロジェクト

総合地球環境学研究所の研究プロジェクト（「気候適応史料プロジェクト」）

＜国際交流活動＞

1. 「Inflation Shocks, Expectations and Monetary Policy」Kenneth N. Kuttner (Williams College) との共同研究

特命教授　　西村　和雄（Kazuo NISHIMURA）
・計算社会科学研究センター／データ分析部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

1. 「行動変容と向社会的意思決定」（八木匡，井上寛規と共著）Journal of Quality Education, Vol.13,　pp.83-106　2024 年 3 月
2. “Parenting methods in relation to norm awareness, social success, and perspectives of family in adulthood,” (with Tadashi Yagi and Makoto Yano), Journal of Computational Social Science, Vol.6, Issue 2, pp.1193-1214, October 2023
3. Yunfang Hu, Takuma Kunieda, Kazuo Nishimura and Ping Wang, Flying or trapped?, *Economic Theory* 75, pages 341–388 (2023)

□掲載予定論文

1. “Expectations, beliefs and the business cycle: tracing back to the deep economic drivers” (with Frédéric Dufourt and Alain Venditti), Economic Theory, March 2024 (Published Online)
2. “A dynamic theory of the Balassa-Samuelson effect: Why has the Japanese economy stagnated for over 30 years?,” (with Harutaka Takahashi and Alain Venditti), Communications in Optimization Theory, forthcoming

□未掲載論文(DP/WP)

1. 「思考タイプと仕事・学習における能力形成」（八木匡と共著）ディスカッションペーパー RIETI Policy Discussion Paper Series, 24-J-008　経済産業研究所　2024 年 3 月

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

1. （招待講演）「基本的モラルと社会的成功－正直者は損をするのか?」
   日本学士院第 76 回公開講演会　日本学士院会館　2023 年 10 月 28 日

2. (招待講演)　ユネスコ・スクール（ASP（Associated Schools Project）net）
   『平和のための芸術と文化シンポジウム』
   Basic Morality : Making a Society in Crisis Sustainable　2023 年 9 月 14 日

3. （講演）「日本の教育を考える」第 30 回『攻めの学校経営』（攻め学）ゼミナール
   三原リージョンプラザ文化ホール　2023 年 8 月 27 日

4. (招待講演)「基本的モラルが意味するもの」公開シンポジウム「子供たちの未来のために」
   京都大学時計台記念館国際交流ホールI　2023 年 8 月 5 日

■記事（解説/コメント/インタビュー記事/寄稿）

1. 「大阪市の『学力離陸』の指導法」『産経新聞』（2024 年 2 月 26 日付「正論」）
2. 「大阪市『学校安心ルール』の秘密」『産経新聞』（2023 年 7 月 21 日付「正論」）

＜社会活動＞

■所属学会

1. Society for the Advancement of Economic Theory (SAET)
   2020～　Economic Theory Fellow
2. International Engineering and Technology Institute
   2015～　Distinguished Fellow
3. Econometric Society
   1992～　Fellow of the Econometric Society
4. 日本経済学会
5. 日本数学協会
6. 国際教育学会

■学会役員

1. 日本経済学教育協会（経済学検定試験実施）2002～会長
2. 国際教育学会 2006～会長

■雑誌編集

- *Taiwan Journal of Applied Economics,* Member of the Honorary International Editorial Advisory Board, 2017-
- *Neuroscience Communications*, Smart Science & Technology, Member of Editorial Board, 2015-
- *Advances in Dynamical Systems and Applications, Research India Publications*, Member of Editorial Board, 2006-
- *Brazilian Journal of Business Economics*, Catholic University of Brasilia, Member of Advisory Board, February 2012-
- *Journal of Reviews on Global Economics*, Lifescience Global, Member of Editorial Board, 2012-
- *Journal of Macroeconomics*, Elsevier, Member of Editorial Board, 2003-
- *Journal of Economic Development*, Chung Ang University, Member of Editorial Board, 1997-
- *Journal of Difference Equations and Applications*, Gordon and Breach Publishers, Member of Editorial Board since 1997-2023
- *International Journal of Dynamical Systems and Differential Equations*, Nova Science Publishers, Member of Editorial Board, 2006-
- *Review of International Economics*, Wiley-Blackwell, Member of Editorial Board, 1997-
- *Seoul Journal of Economics*, Seoul University, Member of Editorial Board, 1996-
- *Theoretical Economics Letters*, Scientific Research Publishing, Member of the Editorial Board, April 2011-

■学外委員その他

2017～	大阪市教育委員会　顧問
2016～	公益財団法人 KIER 経済研究財団　監事
2013～	総合診断医療研究会　名誉顧問
2012～	高等教育国際基準協会　名誉顧問
2009～2022	東京大学大学院経済学研究科附属日本経済国際共同研究センター顧問
2005～	NPO これからの教育を考える会理事

■メディア掲載など
・日本教育新聞　紹介記事「＜学校経営＞管理職・教員　行政職員ら『本物』から理論・応用力学ぶ　西村・神戸大特命教授を講師に年齢や役職超え議論」（2023 年 10 月 23 日付、4 頁）

・Wellulu　インタビュー記事「褒めかた・叱りかたは子どもの将来に影響する。『次はがんばろうね』と叱るのがプラスに【神戸大学・西村特命教授】」（2023 年 7 月 25 日付）

＜国際交流活動＞
1.経済発展と技術導入に関する研究
　ワシントン大学 Ping Wang、神戸大学 胡云芳　関西学院大学 國枝卓真(2020 年度~)

2. 経済動学に関する研究
Alain Venditti、　AMSE（Aix-Marseille　経済大学）（2020 年度―）

＜産官学連携＞
・共同研究
産業技術総合研究所・京都大学：「脳活動計測を用いた人間の思考・行動特性の神経経済学的研究」（2014 年 5 月～2024 年 3 月）（研究代表者）

准教授　　加藤　諒（Ryo KATO）

・計算社会科学研究センター／データ分析部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著　書（分担翻訳）】

1. 加藤諒 (2023) ,「完全無作為化実験に対するモデルベースの推論—付録」,（インベンス・ルービン 統計的因果推論(上), 星野 崇宏・繁桝 算男監訳）, 朝倉書店.

2. 加藤諒 (2023) ,「標準的な平均処置効果推定量のサンプリング分散」,（インベンス・ルービン 統計的因果推論(下), 星野 崇宏・繁桝 算男監訳）, 朝倉書店.

＜学会報告等研究活動＞

1. 加藤諒, 星野崇宏. タイムプレシャーと消費者の店舗内行動, 行動経済学会 第 14 回大会, 高知工科大学, 2023 年 12 月. (招待有)

2. Takefumi UENO, Ryo KATO, Motohiko NAKAMURA, Masashi GOTO, and Takahiro HOSHINO. "Analysis of the impact of AI technology on CPA work: Simulating the possibility of improving the productivity of CPA work with AI", Disrupting technology: Contextualising continuity and change in technology, work and employment - An international symposium, Monash University Prato Centre, Italy, 11-13 June 2023.

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本マーケティング・サイエンス学会
2. 日本行動計量学会

■学外委員その他

総務省統計局 個人企業経済統計欠測値補完に関する意見交換会 構成員
2023 年度統計関連学会連合大会　プログラム委員

特命助教　　ロミチ，イヴァン（Ivan ROMIC）
・計算社会科学研究センター／データ分析部門
・経済経営研究所

研究活動

＜学会報告等研究活動＞

1. （司会）Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024, University of Amsterdam, March 6-7, 2024
2. （報告）“Social Networking Agency: From Theory to Application,” Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024, University of Amsterdam, March 6, 2024
3. （報告）“Freedom of Choice in Economic Games,” FEBT 2023 Summer School in Behavioral Economics, University of Split, July 6, 2023
4. （報告）“Freedom of Choice in Economic Games,” Social Psychology Brownbag Talks: Department of Experimental and Applied Psychology, Vrije Universiteit Amsterdam , June 29, 2023
5. （司会）CCSS International Symposium on Behavioral and Computational Social Science, (Online), May 8, 2023

＜社会活動＞

■所属学会

アメリカ経済学会 (American Economic Association)
アメリカンナチュラリスト協会 (American Society of Naturalists)

■学術論文レフリー

1. Regional Studies, Regional Science
2. Journal of the Royal Society Interface
3. Progress in Energy

■その他

June 2023　Visiting researcher at the Institute of Psychology, University of Leiden, the Netherlands.

＜国際交流活動＞

Zvonimir Basic, Max Planck Institute
Angelo Romano, Leiden University
Zhen Wang, Northwestern Polytechnical University

特命助教　　陳　訓泉　（Xunquan CHEN）

・計算社会科学研究センター／データ分析
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文
□掲載済

1. “Optical Flow Regularization of Implicit Neural Representations for Video Frame Interpolation,” (co-authored with Weihao Zhuang, Tristan Hascoet, Ryoichi Takashima, Tetsuya Takiguchi), *APSIPA Transactions on Signal and Information Processing*, Vol.12, Issue 1, e39, September 2023
2. “Any-to-Any Voice Conversion With Multi-Layer Speaker Adaptation and Content Supervision,” (co-authored with Xuexin Xu, Liang Shi, Pingyuan Lin, Jie Lian, Jinhui Chen, Zhihong Zhang, and Edwin R. Hancock), *IEEE/ACM Transactions on Audio, Speech, and Language Processing*, Vol.31, pp.3431-3445, 2023
3. “Speaker-Independent Emotional Voice Conversion via Disentangled Representations,” (co-authored with Xuexin Xu, Jinhui Chen, Zhihong Zhang, Tetsuya Takiguchi, and Edwin R. Hancock), *IEEE Transactions on Multimedia*, Vol.25, pp.7480-7493, 2023
4. “Zero-shot Sound Event Classification Using a Sound Attribute Vector with Global and Local Feature Learning,” (co-authored with Yihan Lin, Ryoichi Takashima, and Tetsuya Takiguchi), *IEEE International Conference on Acoustics, Speech and Signal Processing (ICASSP)*, pp.1-5, 2023

【その他】

＜学会報告等研究活動＞

“Voice Assistive Technology Based on Deep Learning Models for Individuals with Articulation Disorders,” Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024, University of Amsterdam, March 6, 2024

（招待講演）“Voice Support Technology for Individuals with Articulation Disorders using Deep Learning Models,” 第 24 回北東アジアシンポジウム, Sun Yat-sen University, November 21, 2023

＜社会活動＞

■所属学会
・日本音響学会（学生会員）

助手　　シャディ，サラマ（Shady SALAMA）

・計算社会科学研究センター／データ分析部門

・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■レフェリー付論文

□掲載済

1. “Dispatching Rules Selection Mechanism Using Support Vector Machine for Genetic Programming in Job Shop Scheduling,” (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), *IFAC-PapersOnLine*, 56(2), pp.7814-7819, 2023

2. “Feature Selection Approach for Evolving Reactive Scheduling Policies for Dynamic Job Shop Scheduling Problem Using Gene Expression Programming,” (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), *International Journal of Production Research*, 61(15), pp.5029-5052, 2023

＜学会報告等研究活動＞

■報告（学会報告/会議報告）

1. （報告）“Smart Grids for Society 5.0: Enhancing Efficiency with Data-Driven Machine Learning for Residential Load Prediction, Profiling, and Demand Management,” Joint CCSS-UvA Workshop on Computational Social Science and Intelligent Systems, Amsterdam 2024, University of Amsterdam, March 7, 2024

2. （報告）“Dispatching Rules Selection Mechanism Using Support Vector Machine for Genetic Programming in Job Shop Scheduling,” (co-authored with Toshiya Kaihara, Nobutada Fujii, and Daisuke Kokuryo), The 22nd World Congress of the International Federation of Automatic Control, Pacific Convention Plaza Yokohama, July 13, 2023

准教授　　高槻　泰郎（Yasuo TAKATSUKI）
・計算社会科学研究センター／データベース部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【著書（分担執筆）】

1. 「貨幣・金融―お金のやりとりに見る近世社会の特質―」上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門―ようこそ研究の世界へ！―』　勉誠社　2024 年 2 月　291-299 頁
2. 「貨幣改鋳と経済政策の展開」村和明・吉村雅美編『日本近世史を見通す 2　伝統と改革の時代―近世中期―』　吉川弘文館　第 5 章　2023 年 12 月　113-136 頁

【論　文】

■掲載論文（査読あり）

掲載済

1. “The Role of Information in the Rice Exchange: YAMAGATA Bantō’s Great Knowledge (1806),” (with Taro Hisamatsu), *European Journal of the History of Economic Thought*, Vol.30 (3), pp.395-409, June 2023

【その他】

1. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞大坂商人のしたたかさ　明るみに　豪商・加島屋の古文書発見」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2024 年 2 月
2. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞西宮の商人　新市場創設を献策　民意を積極的に取り入れ」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2024 年 1 月
3. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞賄賂の水準　時代と共に変遷　汚職と言えば田村意次？」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 12 月
4. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞相場格言の原点と真意　現代に通じる指南書『八木虎之巻』」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 11 月
5. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞投機に熱上げる大坂人　堂島米市場の取引指南書続々」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 11 月
6. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞江戸時代、商家の資産運用　茶道具で物価上昇に備え」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 10 月
7. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞どうする吉宗（下）　貨幣改鋳、執念の米価回復」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 9 月
8. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞どうする吉宗（中）　世界初の市場を創設したが…」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 8 月
9. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞どうする吉宗（上）　物価高騰期比引き下げ令効果なく」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 7 月

10. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞盛んに売買された『お米券』　江戸時代は貯蓄より投資？」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 6 月

11. 「江戸時代の豪商に求められた社会的責任」『野村サステナビリティクォータリー』第 4 巻第 2 号　2023 年 5 月　6-7 頁

12. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞通帳の語源は江戸時代の『通い帳』　貸し借り記帳し現金決済省く」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 5 月

13. 「＜歴史に学ぶ　関西経済＞キャッシュレス　兵庫、大阪振るわず　江戸時代は関東より先進地」『神戸新聞』（夕刊・電子版）2023 年 4 月

＜学会報告等研究活動＞

1. （招待講演）金融経済講演会　ホテルニューオータニ鳥取　2024 年 1 月 9 日　「商人から見た江戸時代—堂島米市場における大坂商人のイノベーション—」

2. （セミナー報告）関西学院大学産業組織論ワークショップ　関西学院大学　2023 年 11 月 24 日　「堂島米市場の価格変動分析—指数先物市場とスポット市場—」（髙橋秀徳との共同研究）

3. （招待講演）令和 5 年度企画展　国指定史跡熊本藩高瀬米蔵跡展記念講演会　玉名市民会館　2023 年 11 月 12 日　「江戸時代大坂米市場における肥後米の位置」

4. （学会報告）水文・水資源学会／日本水文科学会 2023 年度研究発表会　出島メッセ 2023 年 9 月 4 日　「歴史的気象記録に基づく日射量の復元—1830 年代の飢饉における気候条件と市場経済—」（増田耕一、市野美夏、三上岳彦との共同報告）

5. （セミナー報告）歴史ビッグデータ研究会　2023 年 8 月 18 日　「19 世紀日本の天候と市場経済の連関—歴史資料からの日射量推定と米価による解析—」（市野美夏、増田耕一との共同報告）（オンライン開催）

6. （学会報告）第 92 回社会経済史学会全国大会　西南学院大学　2023 年 5 月 28 日　パネルディスカッション「近世日本金融市場における流動性の供給」（組織者：萬代悠）

7. （司会）第 92 回社会経済史学会全国大会　西南学院大学　2023 年 5 月 27 日　「植民地産品流通の地理的不均一性と商品価格形成—1900-39 年東京・大阪・熊本米価の分析—」

8. （招待講演）大阪ロータリークラブ卓話　リーガロイヤルホテル　2023 年 4 月 21 日　「金融都市『大坂』の魅力」

＜社会活動＞

● 取材協力

1. 日本経済新聞（大阪夕刊）、「大阪の発展　時超え橋渡し、淀屋橋　堂島米市場や御堂筋、往来支え」、2024 年 3 月 12 日付

2. 神戸新聞（夕刊）、「江戸期に大阪で創業、コメ取引で財成す　豪商『加島屋』の歴史後世に」、2023 年 5 月 13 日付

3. 神戸新聞（電子版）、「朝ドラ『朝がきた』主人公も一族…謎の豪商『加島屋』とは子孫宅に眠る史料 1 万点超、研究者らが注目」、2023 年 5 月 13 日付

4. 朝日新聞（阪神朝刊）、「豪商・加島屋創業の広岡家出身　芦屋の西野さん　窮屈だっ

た家柄　転機は『朝ドラ』」、2023 年 4 月 20 日付

■編集委員・学外委員
編集委員
・社会経済史学会（2023 年 5 月～）
・日本経済史研究所（2019 年 6 月 1 日～）
・政治経済学・経済史学会（2014 年 12 月 1 日～2023 年 10 月）
・政治経済学・経済史学会（2014 年 12 月 1 日～）

学外委員
・日本学術会議連携会員（2017 年 10 月 1 日～）
・日本学術会議若手アカデミー（2017 年 10 月 1 日～）

＜国際交流活動＞
「前近代経済における公共投資の実施形態に関する清朝中国と徳川日本の比較研究」
SNG Tuan Hwee（シンガポール国立大学）と共同研究

教授　　島村　靖治（Yasuharu SHIMAMURA）

・計算社会科学研究センター/データベース部門
・大学院国際協力研究科

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■ 掲載論文（査読なし）

1. インドネシア医療ボランティアの活動報酬に対する選好—離散選択実験による実証分析—　劉 子瑩, 佐藤 希, 島村 靖治　国民経済雑誌 227(4) 107-119 2023 年 6 月

＜学会報告等研究活動＞

■報告（学会報告/会議報告）

1. （企画セッション）　インドシナ半島諸国の村落医療施設における患者満足度の分析　　(国際開発学会第 34 回全国大会 2023 年 11 月 12 日)

＜社会活動＞

■所属学会

1. 開発経済学会
2. 日本国際保健医療学会
3. 国際開発学会
4. 日本経済学会

＜国際交流活動＞

・JICA（国際協力機構）研究所との共同研究
「ミャンマーにおける都市給水事業に関する実証研究」をアジア工科大学院と共同で実施。

・JICA（国際協力機構）研究所との共同研究
「モロッコにおける地方道路整備事業に関する実証研究」を慶応義塾大学と共同で実施。

・JICA（国際協力機構）研究所との共同研究
「ザンビアにおける深井戸建設事業に関する実証研究」を慶応義塾大学と共同で実施。

・科研費による共同研究
「新興国におけるナッジ活用と大規模データとの結合による政策評価手法の探求」をベトナム・フエ農林大学、インドネシア・ガジャマダ大学と共同で実施。

・科研費による共同研究
「インドシナ半島におけるプライマリ・ヘルスケア・システムの国際比較研究」をベトナム・フエ医科薬科大学、カンボジア・国立公衆衛生院、ラオス・国立感染症研究所と共同で実施。

特命講師　　小代　薫（Kaoru KOSHIRO）
・計算社会科学研究センター／データベース部門
・経済経営研究所

研究活動

＜学会報告等研究活動＞

■講演（招待講演/基調講演）

1. （招待講演）「ブラタモリで話せなかった神戸居留地」令和 5 年度港湾・海岸及び空港講演会　デザインクリエイティブセンター神戸　2024 年 3 月
2. （司会）「未来防災会議 DAY2　異分野共創ディスカッション」防災減災の国際連続ワークショップ　KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2024”　神戸大学百年記念館（オンライン開催）　2024 年 3 月
3. （企画運営　プロデューサー／ディレクター）「防災減災の国際連続ワークショップ　KOBE PEER WORKSHOP “MIRAI BOSAI 2024”」　神戸大学百年記念館（オンライン開催）　2024 年 3 月
4. （招待講演）「六甲山の今とこれから～トークセッション～」2023 年度第 3 回「神戸観光 LINK CAFE」六甲山と港町神戸　ANA クラウンプラザホテル神戸　2024 年 2 月
5. （招待講演）「日本の山遊び文化発祥の地、六甲山の歴史とその魅力」2023 年度第 3 回「神戸観光 LINK CAFE」六甲山と港町神戸　ANA クラウンプラザホテル神戸　2024 年 2 月
6. （招待講演）「ブラタモリで話せなかった神戸のまちづくり」神戸市老眼大学令和 5 年度第 III 期　第 19 回　神戸文化ホール　2024 年 1 月
7. （招待講演）兵庫・神戸の文化と “まち” の魅力」兵庫県立兵庫津ミュージアムひょうごの匠展関連企画講演会　兵庫県立兵庫津ミュージアム　2023 年 12 月
8. （招待講演）「神戸雑居地のまちづくり」KOBE まち大 2023　再発見・神戸中心市街地の背骨　こうべまちづくり会館（オンライン開催）　2023 年 10 月
9. （招待講演）「おんたき茶屋の歴史と魅力」神戸布引おんたき茶屋　神戸歴史遺産認定記念講演会　北野工房のまち　2023 年 9 月
10. （単独招待講演）「ブラタモリで話せなかった神戸居留地」神戸みなとの知育楽座 Part-12 「神戸のみなと・まち・歴史をもっと知ろう！」～神戸に関係部深い人物・事象～　神戸海洋博物館ホール　2023 年 9 月
11. （単独招待講演）「神戸の都市形成」神戸大学 V. School 「サステナブル海洋都市研究学生部会勉強会」　神戸大学　2023 年 7 月
12. （単独招待講演）「神戸学」　神戸大学附属中等教育学校　2023 年 6 月
13. （招待講演）「海と山の街、神戸の風景をつくる～公民学連携で進めている布引プロジェクトの紹介～」兵庫倶楽部　5 月会員例会　神戸国際会館　2023 年 5 月
14. （パネリスト）「鈴木商店ゆかりの財界人ともに語る鈴木商店と神戸（未来志向編）」神戸港と鈴木商店を語る会　神戸ポートオアシス　2023 年 4 月

15. （パネリスト）「各分野のスペシャリストが語る鈴木商店と神戸（歴史探訪編）」神戸港と鈴木商店を語る会　神戸ポートオアシス　2023 年 4 月

16. （基調講演）「鈴木商店が神戸の都市形成にもたらしたもの」神戸港と鈴木商店を語る会　神戸ポートオアシス　2023 年 4 月

＜社会活動＞

■所属学会

1. 日本建築学会　正会員
2. 応用地域学会　正会員

■雑誌編集

・学術論文レフリー

『日本建築学会計画系論文集』

■学外委員その他

1. 養父市「関宮小さな拠点管理推進会議」　委員
2. 養父市養父市場町「遊休地活用検討委員会」　委員
3. こうべ北野町山本通伝統的建造物保存会　顧問
4. 神戸布引おんたき茶屋保存会　代表（「実行委員長」）
5. NPO 法人 UnknownKobe　副理事長
6. アーバンデザインセンター神戸 078（UDC078）　理事
7. 兵庫県建築士会　一級建築士
8. 新修神戸市史「生活文化編」　執筆委員

■その他

・社会貢献事業

街歩き案内

「小代先生と行く！布引の滝ガイドツアー」2023 年度第 3 回「神戸観光 LINK CAFE」六甲山と港町神戸、2024 年 2 月 28 日

「神戸学フィールドワーク（北野、居留地）」主催：神戸大学附属中等教育学校、2023 年 7 月

・メディア掲載

「＜里山・里海 SDGs＞都会のオアシス布引の滝　新神戸駅からふらっと登山　自然と歴史まちづくりに生かす」『朝日新聞 DIGITAL』（2024 年 3 月 28 日付）

「大正創業、神戸・布引の滝の名所　『おんたき茶屋』市民で守る」『神戸新聞』（2023 年 11 月 7 日付夕刊、1 頁）

「『おんたき茶屋』魅力語る　市の歴史遺産認定で講演会」『神戸新聞』（2023 年 9 月 30 日付朝刊、25 頁）

「開港直後の神戸　鮮明に　明治初期の街並み　撮影の写真　高い資料的価値」『神戸新聞』（2023 年 7 月 18 日朝刊、1 頁）

「布引の滝（神戸市）　歌人たち魅了した名瀑」『よみほっと』（2023 年 5 月 21 日付読売新聞日曜版、1 頁「旅を旅して」）

「明治・大正期の総合商社『鈴木商店』と神戸港の関わりを探る　急成長の背景に港湾

都市の発展　研究者や記者らパネル討論」『神戸新聞』（2023 年 4 月 25 日付朝刊・電子版、25 頁）

・その他

監修「JR 三宮駅ビル工事仮囲い『鉄道 150 周年歴史年表』グラフィック」JR 西日本旅客鉄道株式会社　2024 年 3 月

コンテンツ協力「回遊性向上サービス『Be Kobe Fun!』」株式会社デンソーテン　2023 年 10 月

特命講師　　田中　克幸（Katsuyuki TANAKA）

・計算社会科学研究センター／データベース部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■掲載論文（査読付き）

□未掲載論文(DP/WP)

1. “Reality Hits Early Warning System: Based on Unsupervised Isolation Forest Anomaly Detection,” (with Takuo Higashide, Takuji Kinkyo, and Shigeyuki Hamori), *RIEB Discussion Paper Series*, No.DP2024-04, Kobe University, February 2024

助教　　正田 ヴェラ パオラ レイエス
（Vera Paola Reyes SHODA）

・計算社会科学研究センター／データベース部門
・経済経営研究所

研究活動

＜研究業績＞

【論　文】

■未掲載論文

1. “Which Type of Misinformation Is the Hardest to Detect? Gender and Age-Group Differences in Fake News Consumption on Social Media,” RIEB Discussion Paper Series, No.DP2023-20, 12pp., October 2023

【その他】

1. 「優先座席」『RIEB ニュースレター』No. 246　2023 年 6 月

＜社会活動＞

■所属学会

1. 特定非営利活動法人全国語学教育学会
2. Association for Computing Machinery (ACM)

VI. 今後の展望と方針

本センター（CCSS）は、2018 年 4 月に全学基幹研究推進組織として設置されて以降の短期間において、国内外から著名な研究者を招聘し、CCSS School、CCSS Workshop、計算社会科学ワークショップ等の開催を通じ、国内外の研究者コミュニティーに貢献するとともに、研究者を目指す学生に対して教育機会を提供してきた。また、独自のリサーチフェロー制度を設立し、現在、国内外 17 名の著名研究者がリサーチフェローとなっており、研究者コミュニティーとの連携強化に努めてきた。さらに、計算社会科学初の国際査読ジャーナルである「Journal of Computational Social Science」の編集を通じ、国際レベルでの計算社会科学研究の発展に貢献している。これらの活動を通じ、2021 年 3 月の「計算社会科学会」の設立において中心的役割を果たした。本センターは、国内唯一の計算社会科学に特化した研究センターであるだけでなく、計算社会科学における国際的研究拠点として認知されつつある。

国内外における本センターの重要性が今後さらに高まることは確実である中、以下 3 つの課題があると考えられる。

1．予算の獲得

現在独自の予算がない状態であり、外部資金により運営されている活動が多い。ただし、本センターの設立目的自体が外部資金獲得を視野に入れたものであるため、今後、外部資金獲得へ向けた取り組みをさらに強化していく方針である。

2．学内の他組織との連携

これまでも学内他組織との連携により外部資金獲得等の実績をあげてきたが、今後も、連携をさらに強化し、外部資金の獲得等に繋げていく方針である。また、学内外における情報発信も強化し、「計算系・情報系に強い神戸大学」というブランド戦略にも貢献する。

3．若手人材の育成

長期的な人事方針に関しては先端経済経営研究学域の中で議論する必要があるが、特命を含めた任期付若手研究者については、本センターには人材育成の実績がある。今後も、予算も人事ポイントともに状況が厳しい中、外部資金による特命教員等を中心に、若手人材・女性研究者の採用・育成に努めたい。

本センターでは、上記 3 課題に取り組むとともに、2021 年 3 月に計算社会科学会が設立され、計算社会科学に対する社会的関心が高まりを見せている中、学術的にも社会的にも貢献度の高い研究もさらに強化していく方針である。